

令和5年3月24日

予算特別委員長報告書

御報告申し上げます。

去る2月28日再開されました令和5年3月定例会において、議案第20号 令和5年度小田原市一般会計予算ほか16件の各会計当初予算案並びに各条例議案の審査を、私ども11名をもって構成する予算特別委員会に一括付託されましたので、その審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

本委員会は、同日の本会議散会後に招集され、まず委員長の互選を行いましたところ、指名推選により、私、15番奥山が委員長に選出され、続いて、副委員長の互選を行いましたところ、同じく指名推選により、4番角田議員が副委員長に選出されました。

続いて、審査日程が検討され、審査日を3月1日、2日、3日、6日、7日、9日、16日、20日及び23日の9日間と決めました。

1日からの個別審査に当たっては、両副市長、教育長ほか関係職員の出席を求め、各会計当初予算案並びに各条例議案について慎重なる審査を実施いたしました。

また、16日及び20日には本委員会に市長、両副市長及び教育長等の出席を求め、総括質疑を行いました。総括質疑では、多岐にわたる質疑及び意見がありましたので、その一部を申し上げます。

平和施策推進事業については、平和パネル展の内容に対する質疑があり、過去の戦争に限らず、ウクライナ侵略や、近年の我が国を取り巻く「平和を脅かす数々の事例」を取り上げるなど、幅広い認識の下で平和施策に取り組むべきとの意見がありました。

若者未来創造事業については、おだわら若者応援コンペティション等の若者活躍施策に対する質疑があり、夢のある、アイデアにあふれた提案や取組をまちづくりに活かすため、事業への関心が高まるような周知をすべきとの意見がありました。

姉妹都市等交流事業については、交流実績と今後の展望に対する質疑があり、これまでの取組を踏まえ、より一層の経済交流や観光誘客につながる事業を行うなど、姉妹都市等交流の活性化を図るべきとの意見がありました。

ゼロカーボン・デジタルタウン創造事業については、事業の費用対効果に対する質疑があり、先進的、独創的な未来都市づくりは民間の資金やノウハウに委ね、行政は福祉や教育などの施策を優先すべきとの意見がありました。

避難行動要支援者支援事業については、個別避難計画の対象に対する質疑があり、土砂崩れや河川の氾濫が想定されるエリアだけでなく、より多くの要支援者を守るため、対象者やエリアを拡大して個別避難計画の作成を推進すべきとの意見がありました。

ごみ屋敷対策については、ごみ屋敷対策条例の制定に対する見解について質疑があり、問題とされる状況は医療福祉の面を含む、さまざまな要因等により生み出されることから、全庁体制で現地調査等に取り組み、実態を把握しておくべきとの意見がありました。

分散型エネルギーシステム先行モデル構築事業については、脱炭素先行地域づくり事業補助金に対する質疑があり、先行地域となる対象エリア全体で省エネ・再エネ設備の導入が促進されるようにすべきとの意見がありました。

路線バス等移動手段確保維持対策事業については、公共交通に係る予算措置に対する質疑があり、高齢者や障がい者等の移動手段の確保・充実に向け、オンデマンド交通など、地域の実情に見合った取組を早急に進めるべきとの意見がありました。

魅力ある街区公園・街路樹再整備事業については、西海子小路の桜の再整備に対する質疑があり、景観に配慮しつつも、倒木の危険性が高い老木については、市民の命を守ることを最優先に、早急に対応すべきとの意見がありました。

青少年関係団体支援事業については、子ども会の減少に対する質疑があり、子ども会は異学年交流などの貴重な体験ができる場であることから、自治会などとの連携の事例を参考に、子ども会を維持するための方策について検討すべきとの意見がありました。

以上が、総括質疑における主な質疑及び意見であります。

総括質疑の後の採決に当たりましては、委員からの提案により、議案第20号を個別に、議案第21号及び議案第27号の2件を一括で、その他14件の議案を一括で採決

することといたしました。

まず、議案第20号について採決した結果、賛成多数をもって原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第21号及び議案第27号について一括採決した結果、賛成多数をもって、いずれも原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

最後に、その他14件の議案について一括採決した結果、全会一致をもって、いずれも原案のとおり可決すべきものと決定した次第であります。

以上が、審査の経過並びに結果であります。

さて、令和5年度の当初予算額は、過去最大の規模となっており、これは、第6次小田原市総合計画の2年目として、将来都市像である「世界が憧れるまち“小田原”」の実現に向け、第1期実行計画に位置付けられた事業に積極的に取り組む姿勢がうかがえるものであり、また、その財源確保にも最大限に力を尽くされたことと推察いたします。

現在、地球規模の気候変動や、ロシアによるウクライナ侵略の影響等による物価高騰等、市民生活を取り巻く環境が依然として厳しい状況にある中、本市では、新病院建設事業が進行中であることに加え、ゼロカーボン・デジタルタウンの創造事業などの大規模事業が控えていることから、より一層の財源確保に向けた取組が必要となってきます。

一方、観光客数の増加など、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻りつつあることから、市長におかれましては、行財政運営を巡る厳しい状況に適切に対応しつつ、今後本格的に到来するポストコロナ時代に向け、コロナ禍においても着実に培ってきた本市の強みを生かした、魅力あるまちづくりに努めていただくとともに、本委員会での審査の過程で委員各位から出された質疑、意見等について、意を払い、予算執行に当たられることを強く望むものです。

以上のとおり、本委員会における審査の経過並びに結果について申し上げまして、報告を終わります。